

メルク(MRK)

選択と集中の方針下、オルガノン分社化、新型コロナでワクチン開発から撤退して感染症治療薬の開発に集中

ニューヨーク | 大手製薬 | 業績フォロー

BLOOMBERG MRK:US | REUTERS MRK.N

- 2020/12期4Q(10-12月)は、売上高が前年同期比5.4%増、純利益が赤字転落だが、調整後EPSは同13.8%増と実質増収増益だった。
- オンコロジーのキイトルーダやリンパルザ、ワクチンのガーダシル/ガーダシル9、救急治療のブリディオオンやレンビマ等が増収に貢献。
- 事業選択と集中の方針下、オルガノン分社化のほか、新型コロナではワクチン開発から撤退し感染症治療薬の開発に集中する方針。

What is the news?

2/4発表の2020/12期4Q(10-12月)は、売上高が前年同期比5.4%増の125.14億USD、純利益が前年同期の23.57億USDから▲20.94億USDへ赤字転落。主力のがん免疫治療薬「キイトルーダ」のほか、HPV感染予防ワクチン「ガーダシル/ガーダシル9」および膵臓がん治療薬「リンパルザ」の貢献もあり増収を確保した。昨年米ベロスバイオ買収に係る費用、および昨年12月に発生した抗菌剤ザバクサに係るリコールや販売の一時的な中断に伴う無形固定資産の減損損失計上が最終赤字に響いた。一方で、Non-GAAPの調整後EPSは同13.8%増の1.32USDと実質増益だった。

製品別の売上高は以下の通り。①オンコロジー(腫瘍学)では、主力の「キイトルーダ」が前年同期比28%増の39.93億USD、「シムホニ」が同9%増の2.23億USD、「リンパルザ」が同56%増の2.06億USD。②ワクチンでは、「ガーダシル/ガーダシル9」が同44%増の9.98億USD、「プロクワッド/バリバックス」が同2%増の4.88億USD、「ニューモバックス」が同1%増の3.39億USD、「ロタテックス」が同14%減の1.96億USD。③救急治療では、「ブリディオオン」が同13%増の3.55億USD、「レンビマ」が同28%増の1.58億USD。④その他医薬品では、「ジャヌビア/ジャヌメット」が同6%減の13.28億USD、「インプラノン」が同20%減の1.65億USD。⑤動物用ヘルスケアでは、家畜向けが同2%増の7.94億USD、動物コンパニオン向けが同8%増の3.74億USDだった。

How do we view this?

2021/12通期会社計画は、売上高が前期比7.9-12.1%増の518-538億USD、調整後EPSが同11.9-15.4%増の6.48-6.68USD。新型コロナウイルスが売上高に2%のマイナスの影響を及ぼすこと、および新型コロナ感染症治療薬の開発費用増を見込む。会社計画は今年後半に婦人科領域、長期ブランド製品、バイオ後発薬事業をスピンオフして設立予定の新会社「オルガノン」の全事業を含むことから、会社予想修正の余地が残される。

上記スピンオフのほか、同社は事業の選択と集中に取り組んでおり、今年1月に新型コロナワクチン候補の開発を打ち切って新型コロナ感染症の経口治療薬の開発にリソースを振り向けている。一方で、同業のジョンソン・エンド・ジョンソン(JNJ)の新型コロナワクチン生産を支援する旨を発表し、収益面では「名より実を取る」姿勢を鮮明にしている。

業績推移

※参考レート 1USD=109.85円

事業年度	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12F	2022/12F
売上高(百万USD)	42,294	46,840	47,994	52,398	54,949
当期利益(百万USD)	6,220	9,843	7,067	14,772	16,424
EPS(USD)	2.32	3.81	2.78	5.66	6.31
PER(倍)	32.81	19.98	27.38	13.45	12.06
BPS(USD)	10.30	10.20	10.01	13.01	14.78
PBR(倍)	7.39	7.46	7.60	5.85	5.15
配当(USD)	1.99	2.26	2.48	2.63	2.83
配当利回り(%)	2.61	2.97	3.26	3.46	3.72

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD) **2.63** (予想はBloomberg)

終値(USD) **76.12** 2021/4/7

会社概要

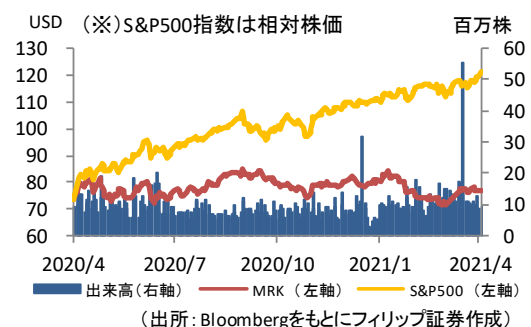
ドイツの化学・医薬品メーカーであるメルクの米国拠点として1891年にニューヨークで設立。メルクの米国事業および資産が第一次世界大戦中に接収され、別個の米国企業として独立した。同社は、医薬品(腫瘍学、ワクチン、救急治療、その他)、および動物用ヘルスケアの製造を行い、自社販路とジョイントベンチャー経由で販売する。

医薬品は以下の通り。①腫瘍学には、癌免疫療法に使用されるヒトモノクローナル抗体である「キイトルーダ」、腫瘍壊死因子(TNF)阻害剤の「シムホニ」、膵臓がん治療薬の「リンパルザ」などがある。②ワクチンには、HPV(ヒトパピローマウイルス)感染予防ワクチンの「ガーダシル/ガーダシル9」、水痘ワクチンの「プロクワッド/バリバックス」、肺炎球菌ワクチンの「ニューモバックス」、ロタウイルスワクチンの「ロタテック」などがある。③救急治療には、筋弛緩薬拮抗薬の「ブリディオオン」、抗急性腫瘍剤の「レンビマ」などがある。④その他の医薬品には、経口血糖降下薬の「ジャヌビア/ジャヌメット」、上腕皮下埋め込み型避妊具の「インプラノン」などがある。

⑤動物用ヘルスケアでは、家畜向け、および動物コンパニオン向けのワクチンおよび寄生虫駆除剤を取り扱っている。

企業データ(2021/4/7)

ベータ値	0.66
時価総額(百万USD)	192,683
企業価値=EV(百万USD)	218,161
3か月平均売買代金(百万USD)	929.9



主要株主(2021/4)

1.VANGUARD GROUP	8.23
2.ブラックロック	7.75
3.ステート・ストリート	4.51

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。